

SHOW-HOMEシネマフルーツ

★★★★

コヴェナント 約束の救出

2022年／アメリカ映画

配給：キノフィルムズ／123分

2024（令和6）年2月23日鑑賞

TOHOシネマズ西宮OS

Data

2024-20

監督・脚本・製作：ガイ・リッチー
出演：ジェイク・ギレンホール／ダール・サリム／アントニー・スター／アレクサンダー・ルドヴィグ／ボビー・スコ菲尔ド／エミリー・ビーチャム／ジョニー・リー・ミラー

みどころ

“コヴェナント”とは聞きなれない単語だが、これは「絆、誓い、約束」のこと。これだけでは何の映画かわからないが、「約束の救出」というサブタイトルを見れば、なるほど、なるほど。

ウクライナ戦争とガザ紛争の話題で持ちきりの昨今、アフガニスタン戦争のことは遠い過去のように思えるが、ガイ・リッチー監督は、そこで米軍とアフガニスタン人通訳との“コヴェナント”に注目し、戦火の中で固い絆で結ばれた男同士の友情物語を完成！

これは面白い！男の私は単純にそう思ったが、他方、女性の視点からは、ある点厳しい指摘も・・・。

■冒頭の舞台はアフガニスタン！時代は2018年！■

2009年に『シャーロック・ホームズ』（09年）『シネマ24』198頁）を大ヒットさせたガイ・リッチー監督がはじめて戦争映画にして壮大な社会派ヒューマンサスペンスに挑戦！そんな本作の冒頭、次のテロップが流れた後、ストーリーが始まっていくが、その舞台はアフガニスタン。時代は2018年だ。

2001年10月7日、9.11の同時多発テロへの報復措置として、アメリカは1300人の兵士をアフガニスタンに派遣

2011年12月になると兵士の数は、9万8000人にまで増えていた

米軍に雇われた5万人のアフガン人通訳は、アメリカへの移住ビザがもらえると、約束されていた

アフガニスタンに派遣されるジョン・キンリー曹長（ジェイク・ギレンホール）もアフガニスタンに派遣される兵士の一人だが、彼の任務は、タリバンの武器や爆弾の隠し場所

を暴くことだ。冒頭のシーンに続いて、キンリーが新たな通訳としてアーメッド（ダール・サリム）を採用するシーンになるが、簡単に人の指図を受けないというこの男は、4つの言葉を話せて非常に優秀な男で役に立ちそうだが、その反面、何かと問題を起こしそうだ。そんな男を通訳として採用して、本当に大丈夫なの？

■□■通訳の役割は？米軍通訳は膨大な数に！■□■

2022年2月24日に始まったウクライナ戦争でも、2023年7月に始まったガザ地区での紛争でも、対立する両国それぞれの軍隊に所属する通訳の役割は大きい。それは考えてみれば、1937年の上海事変に始まった日中戦争においても、当然同じだ。日本軍に従事した中国人通訳は一体どんな役割を？またその人数は？そして終戦後（日本敗戦後）の彼らの運命は？

それを考えると、第2次世界大戦後、米軍が国外に出て戦った①朝鮮戦争、②ベトナム戦争、③中東における一連の紛争では、米軍に所属する膨大な数の通訳がいたはずだ。朝鮮戦争では、米軍は国連軍としての役割を果たしたから、米軍に所属していた韓国語、朝鮮語、中国語の通訳は安泰だったはずだ。しかし、北ベトナムに敗れたベトナム戦争では・・・？そして、2021年8月30日に米軍が完全撤退してしまったアフガニスタンでは？

本作ラストに流れるテロップによると、

2021年8月30日、米軍はアフガニスタンから撤退

20年に及ぶ軍事作戦は終了した

その1か月後、タリバンが政権を掌握

300人以上の通訳とその家族が殺害され、今もなお数千人が身を隠している

そだから大変だ。

■□■コヴェナントとは？■□■

チャン・イエモウ（張芸謀）監督の『グレートウォール』（16年）（『シネマ44』116頁）では、マット・ディモン演じる西洋人の傭兵と、万里の長城を守る美人司令官との「信任（シンレン）」がキーワードだった。それに対して本作では、タイトルにされている「コヴェナント」がキーワード。その意味は、「絆、誓い、約束」だ。男性優位社会の日本では、「男は黙って・・・」を象徴する、三船敏郎や高倉健による、“男の約束”や“義理人情”的大切さが目立っていたが、本作では、米国軍人キンリー曹長とアフガニスタン人の通訳であるアーメッドとの“コヴェナント”に注目！

キンリーの指揮下にある部隊で全体としての任務に当たっていた時は、アーメッドの責任は部分的だった。しかし今、タリバンの襲撃を受け、激烈な銃撃戦の末に、何とか二人で森の中へ逃げ延びた、キンリーとアーメッドは、どうすれば米軍基地までたどり着くことができるの？本作中盤は、民間人の姿に化けたアーメッドが、その逃避行の中で瀕死の重傷を負ったジョン・キンリーを手押し車に乗せて、脱出行を続けていくので、それに注目！近年「内向き志向」がますます強まっている日本では、アフガニスタンの実情はほと

んど知られていない。そのため、本作のパンフレットに掲載されている、白石光氏（戦史研究家）の COLUMN『コヴェナントの世界～アフガニスタンの概略、現地通訳の実態、そして軍事用語～』は、必読！

■口■4 週間後、2人の立場の違いは？元米軍通訳の救出は？■口■

タリバンが必死の捜索を続ける中で、アーメッドが重傷を負ったキンリーを手押し車に乗せて米軍基地まで無事に逃走してきたことは、まさに奇跡。もちろん、完全に意識を失っていたキンリーはそれを全く覚えていなかったが、4 週間後に祖国に送り返され、ベッドの上で妻子と再開したキンリーは、すべての事態を把握することに。

自分はこれからゆっくり静養すれば徐々に健康も回復していくだろう。しかし、キンリーを 100 キロも運んだアーメッドは、英雄になった反面、タリバンからは恨まれ、多額の懸賞金をかけられたため、家族と共に姿を消し、逃げ回っているらしい。これは何とかしなければ！世界に冠たる軍事力を誇る米国なら、家族と共にタリバンから逃げ回っている元米軍通訳のアーメッドを探し出し、米国へのビザを与え、米国に永住させることくらいは朝飯前！キンリーがそう思ったかどうかは知らないが、現実はアレレ、アレレ・・・？

■口■米軍がやらないなら俺が！これぞまさしくコヴェナント■口■

2022 年 2 月 24 日に突如ロシアからの軍事侵攻を受けたウクライナは、西洋諸国の軍事的、経済的支援を受けながら、善戦を続けている。しかし、それでも、ゼレンスキーアジト領が国民的人気の高い前司令官を解任したことによる典型的な見られるように、「組織の動かし方」は難しい。したがって、キンリーがどこに電話しても、「しばらくお待ちください」という対応に直面し、キレてしまったのも当然だ。

俺が今生きているのは、アーメッドが俺を救出してくれたおかげだ。アーメッドは命の恩人だ、そう考えているキンリーは、いくら上層部に訴えてもアーメッド救出の動きを開始しない米軍の組織に苛立ち、ついに自らアーメッドを救出するべくアフガニスタンに赴くことに。そこから始まる。キンリーによるアーメッド救出作戦が、本作を“コヴェナント”というタイトルにしている理由だ。そしてそれは極めて困難な任務であるからこそ、逆に私には、本作はメチャ面白い。

他方、本作についての評論は多いが、私の目を引いたのは、真魚八重子氏（映画評論家）の『戦火の美談 男の友情物語』と題した新聞紙評だ。そこでは「キンリーが自分の家族をないがしろにしている感覚を描写しないのは、些か不備に感じる。」と書かれていたから、なるほどなるほど、女性の視点からは、たしかにこの意見もありだろう。

それを含めて、本作のクライマックスの展開はあなたの目でしっかりと！

2024（令和6）年3月4日記